

阿波國 すきま 漫遊記

VOL.22 橋鉦山ベルトコンベア

【取材・文・写真】 深草 縁夫

関東出身・徳島在住のサラリーマン。2000年からサイト『日本すきま漫遊記』を開発・公開。日本各地の寺・神社を中心として、一般には大々的に取りだたされることのないようなマイナー観光スポットをめぐる紹介している。■日本すきま漫遊記 <http://www.sukima.com>



■阿南市桑野町付近の景観

鉄骨トラスの橋脚がどこまでも続く姿は杜撰だ。この風景が見られるのもあとわずかになった。

徳島の三二餘部鉄橋

JR山陰本線に餘部(あまのこ)鉄橋という明治時代に作られた鉄道橋がある。その鉄橋の掛け替えようと全国から観光客が押し寄せた。餘部鉄橋は細い鉄材を組み上げたトラス橋脚の橋だ。鉄骨のトラスやアーチ構造は力学的な機能美をもつだけでなく、ディテールの細かさやレトロ感によって情緒的な景観を作り出し、山陰を代表する観光地にもなっている。

さて、「徳島の三二餘部鉄橋」と言ってもいような橋梁が阿南にある。橋鉦山から橋港を結ぶ、廣浦鉦業ベルトコンベアだ。国道55号線、195号線、県道24号線をまたいでいるので、県南方面に行くときに気付いている人も多いだろう。だがその取り壊しが決まり、姿が見られるのもあとわずかになった。これはあまり知られていないようだ。この号が店頭に並ぶころにはもう撤去が進んでいるかも知れない。



▲平成17年ごろの様子

かつてベルトコンベアにはかまぼこ状の屋根が載せられていた。台風で屋根が飛ばす被害が出たことから、その後撤去され、平成22年2月現在、ほとんどの部分で屋根は残っていない。

廣浦鉦業・橋鉦山

このベルトコンベアを敷設したのは阿南鉦業という会社だった。昭和36年に着工、同38年完成。石灰石は主に大阪のセメント工場に出荷され、大阪方面の建設需要に使われた。昭和47年に鉦山は現在の所有者である廣浦鉦業に引き継がれ、ベルトコンベアも平成13年まで使われた。

鉦山から掘り出された鉦石から、商品価値の高い石を選別する作業を「選鉦」という。かつては鉦山から掘り出した鉦石を工場に運んでから選鉦していたが、現在では鉦山側で選鉦するようになったこと、セメント以外の高付加

価値商品への転換により、ベルトコンベアでの大量輸送が必要なくなり、トラック輸送に切り替えられた。もちろん背景には国内でのセメント需要の落ち込みもある。

ケーブルベルトコンベア

セメントはかつて阿南市の花形産業でもあった。その象徴ともいえるベルトコンベアが人知れず消えていくのはあまりにもさびしい。そこで廣浦鉦業に特別にお願いして、設備を詳しく見せてもらった。

普通、私たちが想像するベルトコンベアは工場の生産ラインや碎石場などで見かけるものだが、橋鉦山のベルトコンベアはそうした常識とはかけ離れた構造のものだ。なんと鉦山から出荷場までの4・6キロが継ぎ目なしの1本のベルトで結ばれているのである。

動力は工場側にある巨大なモーター1機のみでケーブルを駆動している。ペ



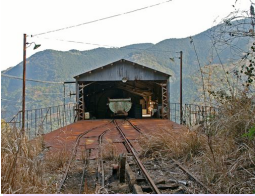
▲巨大モーター

工場側にある巨大電動機。120m/分、300t/時の搬送能力があった。ケーブルベルトコンベアの設備はロープウェイやケーブルカーの構造に近い印象のものだ。



▲ケーブルとベルト

上段が鉦石を運ぶ面で下段は復路。ベルトには両面にケーブルをはめる溝があり、復路でもケーブルの上に乗って鉦山側に戻す。



▲鉦山側の破碎設備

採掘した鉦石は破碎機に投入され、一定の大きさに砕かれてからベルトコンベアに載せられた。採掘現場と破碎機の間は、55台の循環式のトロックで結ばれていた。

ルトはケーブルの上に載っているだけで張力はかからない。この方式をケーブルベルトコンベア(CBC)というのだ。



▲トンネル

ベルトには6箇所のトンネルがあり、その延長は約2.9キロにも及ぶ。これは最も短いトンネルで約60m。トンネルの入口は鉄柵で塞がれていることはできない。



▲野を越え山を越え

ベルトが切れたりケーブルが脱落することがよくあり、始業前には保線員が全経路を歩いて確認したという。山林を通過する場所では、成長の早いタケノコには特に注意が必要だったとか。



▲国道195号線付近

区間で唯一の登り勾配がある箇所。開業当初は、耕作中の水田の上を通過していたが、鉦石がこぼれ落ちたりすることから、通過部分の田んぼを鉦山が買い上げた。



▲平成20年ごろの様子

下を通過する道には橋げたが低い箇所もあった。トラックが引っかかったり、最近では救急車が天井をこすったりしたという。現在、この部分は撤去されている。



▲駐車場に再利用されたベルト

ベルトコンベアの近くの駐車場で、草除けマットの代わりに使われていたベルトを見つけた。ベルトは頻繁に切れ、このように継いで補修された。ベルトは1mで1万円もしたという。